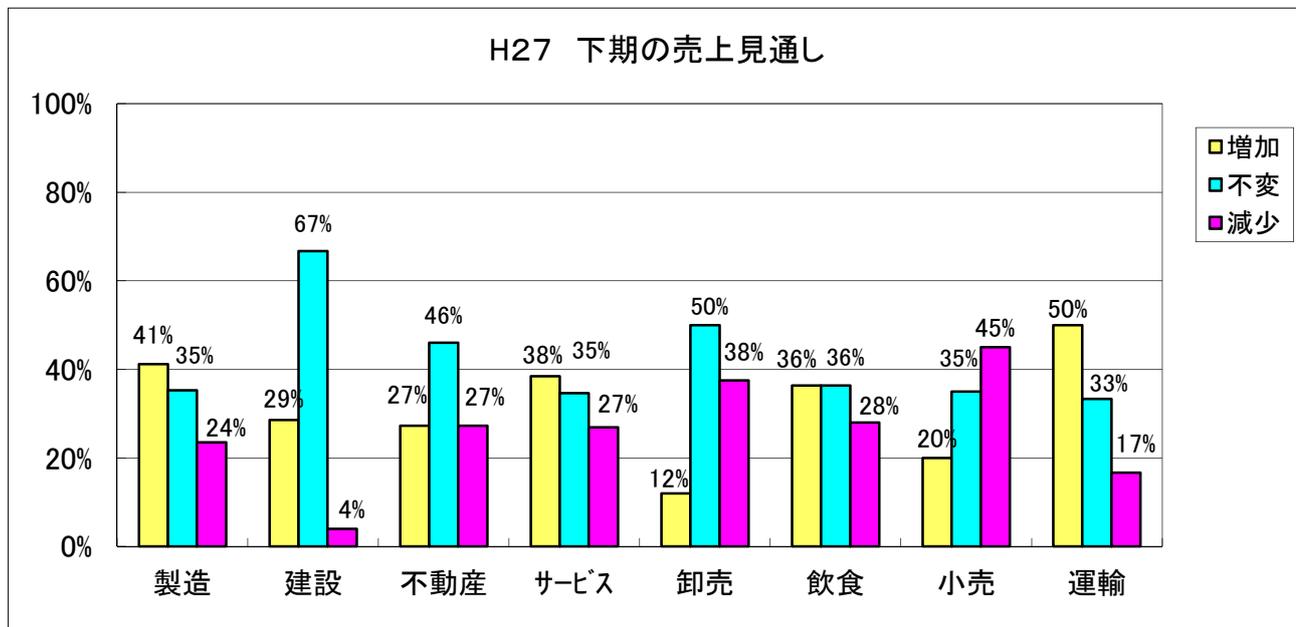


調査2 平成27年1月～6月を水準とした平成27年7月～12月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

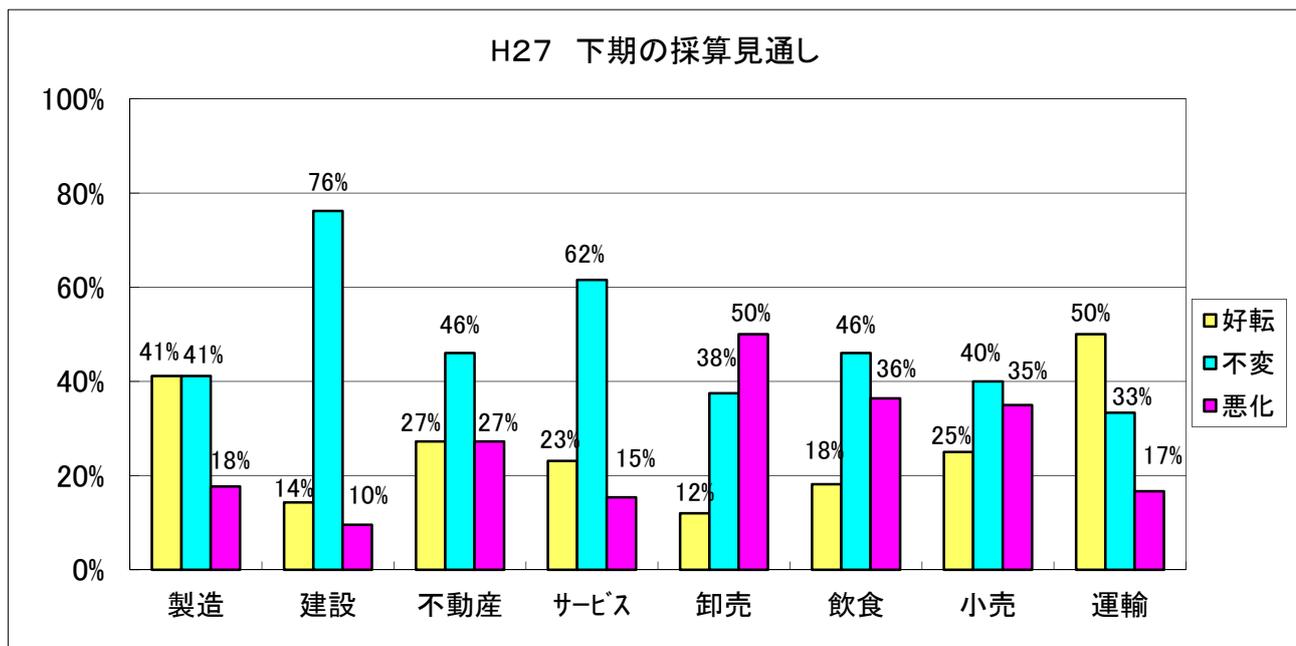
①売上見通し

全体でみると「増加」32%（前回26%）と厳しい見通しとなっている。「不変」42%（前回45%）、「減少」26%（前回29%）となった。業種別でみると「増加」する見通しが多かった業種は、製造業（41%）、運輸業（50%）で、この結果は前回同様であった。一方で「小売業」「卸売業」で売上の「減少」見通しが多かった。



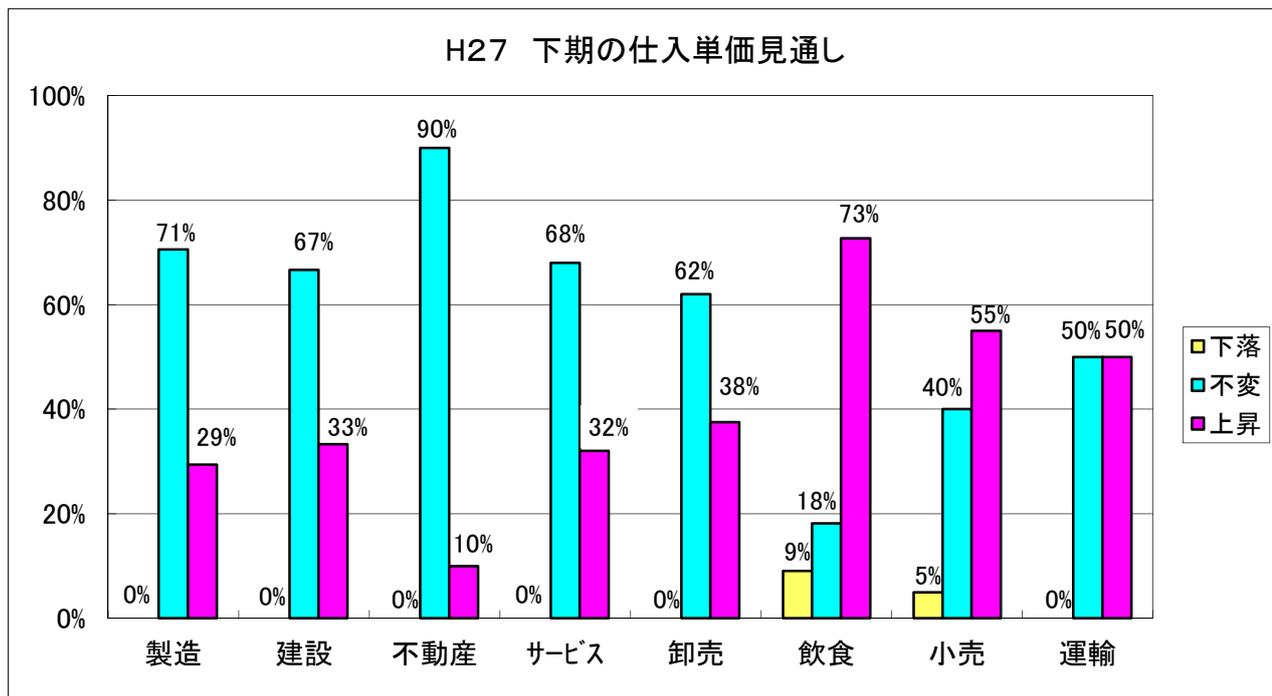
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が26%（前回18%）、「不変」が48%（前回59%）、「悪化」が26%（前回23%）となった。業種では、運輸業の「好転」（50%）がもっとも多かった。「悪化」の見通しが高いのが卸売業（50%）であった。



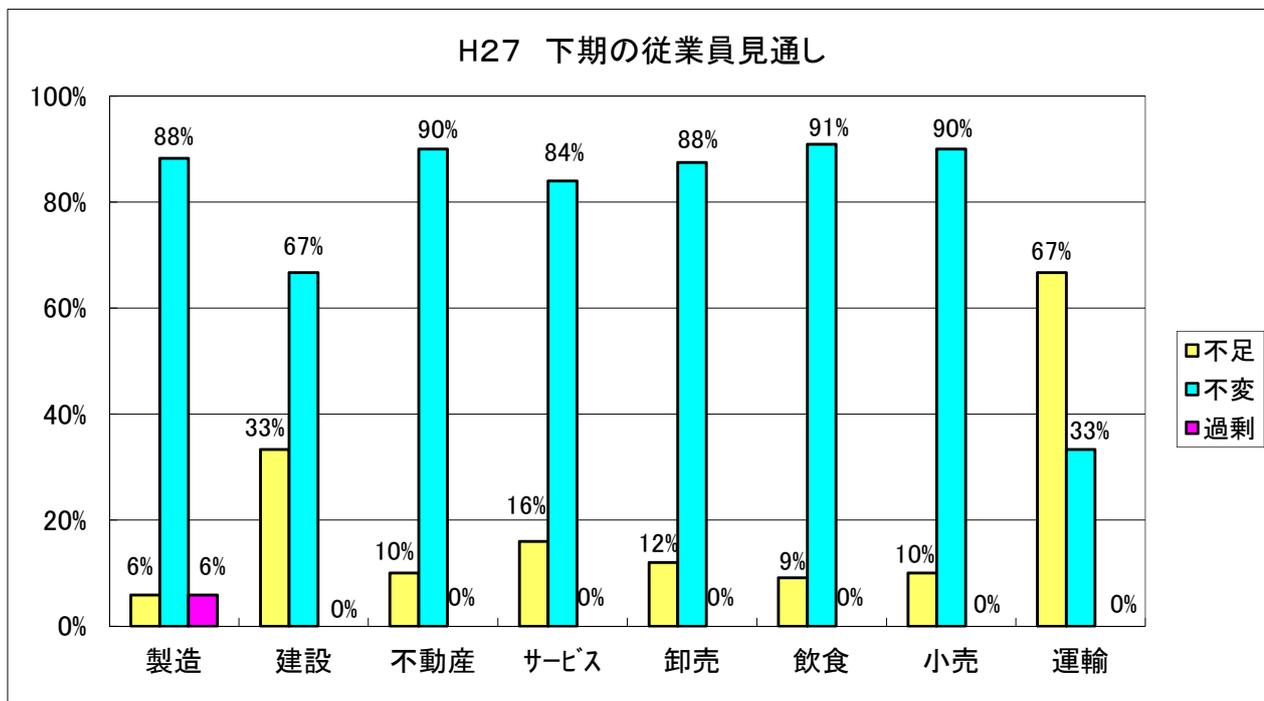
③仕入単価の見通し

仕入単価については、飲食業(73%)、小売業(55%)で「上昇」の回答が多かった。円安や消費税増税によるものと思われる。



④従業員の見通し

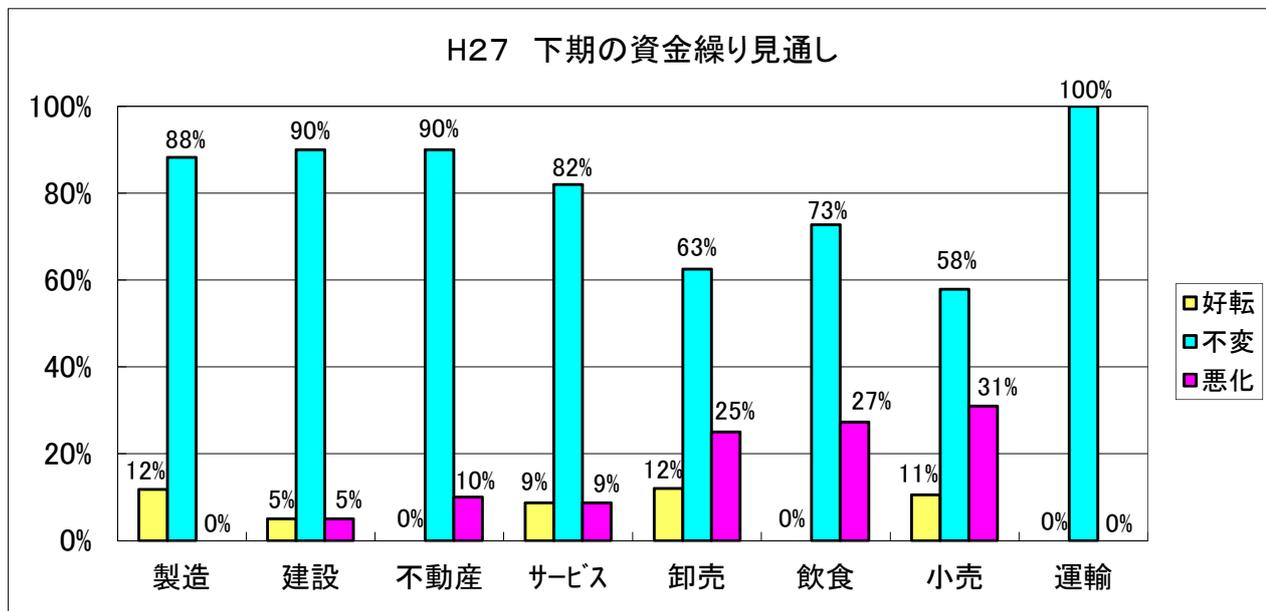
「不足」との回答が多かったのは、前回、前々回調査と同じで運輸業67%(前回83%)がもっとも深刻な人手不足の状態が続いている



⑤業界の景気動向見通しについて
P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

資金繰りの見通しで「悪化」が多かったのが小売業(31%)、飲食業(27%)であった。その他の業種では全体的にあまり変わらない見通しである。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(58%)が多く、続いて「融資無し」(20%)、「緩やか」(16%)、「厳しい」(6%)となっている。前回の調査結果とほぼ同様で融資状況については大きな変化は見られなかった。

